

## 地域から世界の環境問題を考える

～発信！蒲生干潟から世界へ～

宮城県仙台市立中野小学校 酒井 豊

## 1 はじめに

宮城県内の野鳥の飛来地として有名な蒲生干潟を学区内にもつ中野小学校では、1年生の時から五感を使って干潟での活動を進めてきている。蒲生干潟には、毎年野鳥が飛来し、水生生物なども多数見られる。中野小学校の児童にとって、「蒲生干潟の昔と今」を知ることは、何十年先の蒲生干潟のあるべき姿を考え、美しい自然として残し、守り続けていこうという気持ちを育てることが大切であると考え、学習を展開した。

## 2 「蒲生干潟」をスタートとして

5年生の社会科で学習する「環境問題と自然保護」の導入で、まず、蒲生干潟を中心とした環境問題を身近な問題としてとらえ、地域の環境問題と同じことや似たようなことが宮城県、日本や世界で起きていないか、起きていればどんな問題があり、どのような取り組みがされているのかを調査することにした。きっかけの一つとして、野鳥の飛来地を調べたところ、宮城県内にはラムサール条約に登録されている伊豆沼・内沼があることがわかった。また、同じような「干潟」として、谷津干潟（千葉県）、藤前干潟（愛知県）などがあることも確認できた。

帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（以下、地図帳）のp.72にある「②守りたい日本の自然」をもとに、蒲生干潟で見られる「ごみの不法投棄」や「海水の汚れ」などについて、ほか



帝国書院「小学生の地図帳」（初訂版）p.72

の地域での環境問題解決への取り組みについてインターネットの資料や百科事典等で調べながら、学習を進めていった。その中で、調査していた干潟のすぐ近くには、大きな工業地帯が存在することも確認できた。

○谷津干潟（千葉県）……………京浜工業地帯

○藤前干潟（愛知県）……………中京工業地帯

## 3 世界へ

学習を進めていくうちに、飛来する野鳥の数が年々減ってきていることに関連するであろう環境について「森林破壊」、「酸性雨」、「水質汚染」などを含めた問題があることが浮かびあがってきた。地図帳のp.72～73にある「①守りたい世界の自然」を参考資料にし、世界のどの地域で、どのような環境問題が起きているのかをグループで調査し、ノートにまとめるようにした。



帝国書院「小学生の地図帳」（初訂版）p.72～73

## 4 そして蒲生干潟へ

世界の環境問題までを学習してきたまとめとして、一番身近にある蒲生干潟の環境を守り続けていくためには、「今、何をするのがよいのか」について話し合い、「できる活動から始めていこう」というまとめになった。

- 蒲生干潟の清掃（野鳥観察の際にも実施）をする。
- 蒲生干潟に来る人へのゴミの持ち帰りを呼びかける。
- 蒲生干潟や流れ込む川（七北田川）での定期的な水質検査や水生生物調査をする。
- 学習でわかったことを発信する。
- ラムサール条約を頭の片隅に入れて活動する。